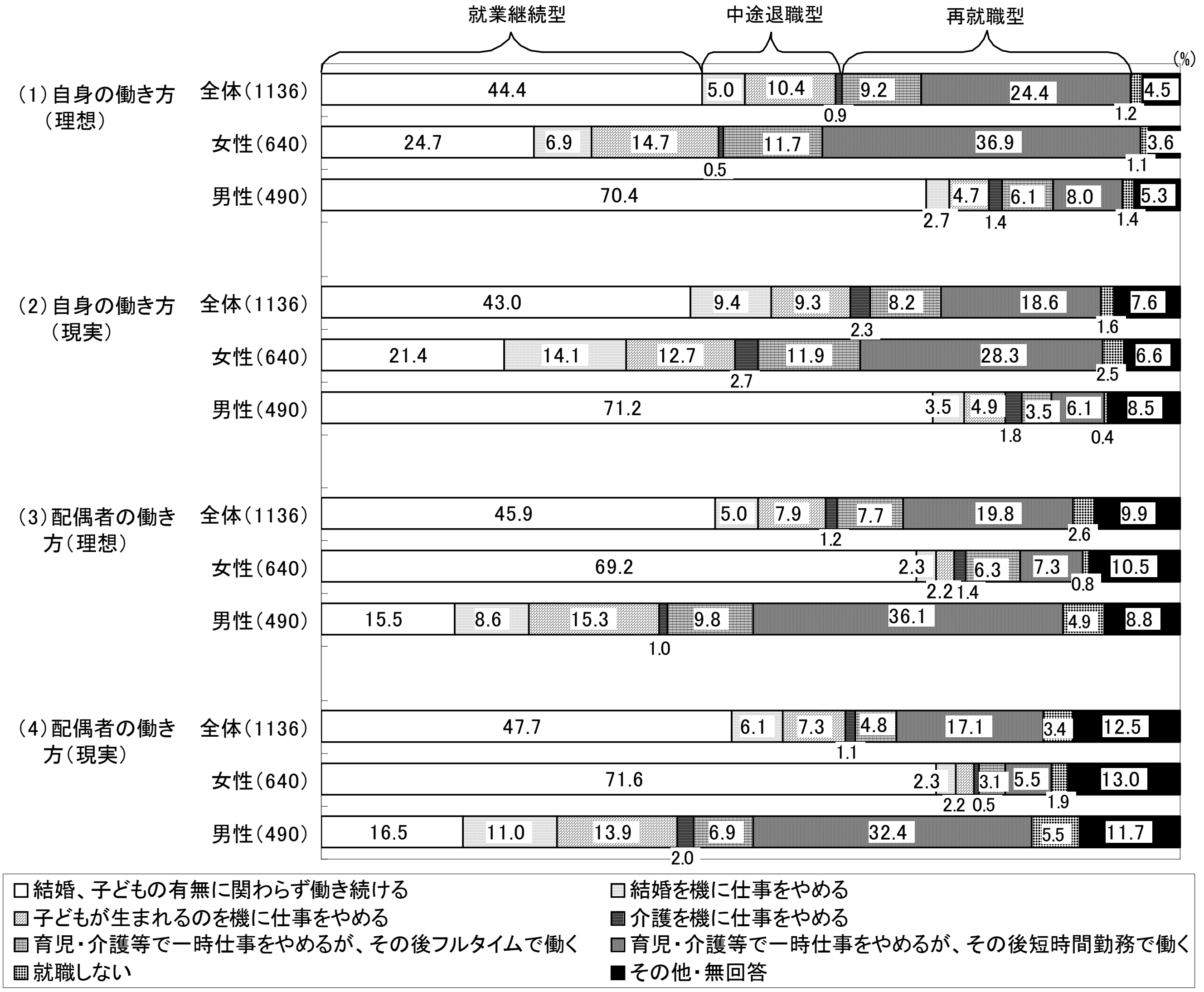
６．働き方

（１）夫婦の働き方、理想と現実

問9. ご自身と配偶者の働き方について、理想と現実はどうですか。(1)～(4)について、それぞれ下の選択肢から**ひとつ**選び、番号を記入してください。その他の場合は具体的な内容を御記入願います。

※結婚されていない方は、結婚しているものと想定してお答え下さい。



自身の働き方について聞いたところ、理想・現実ともに、女性は『再就職型』と回答した割合（理想 48.6%、現実 40.2%）が最も高く、男性は、『就業継続型』（理想 70.4%、現実 71.2%）が最も高い。

配偶者の働き方について聞いたところ、理想・現実ともに、女性は『就業継続型』の割合（69.2%）が最も高く、男性は『再就職型』（45.9%）が最も高くなっている。

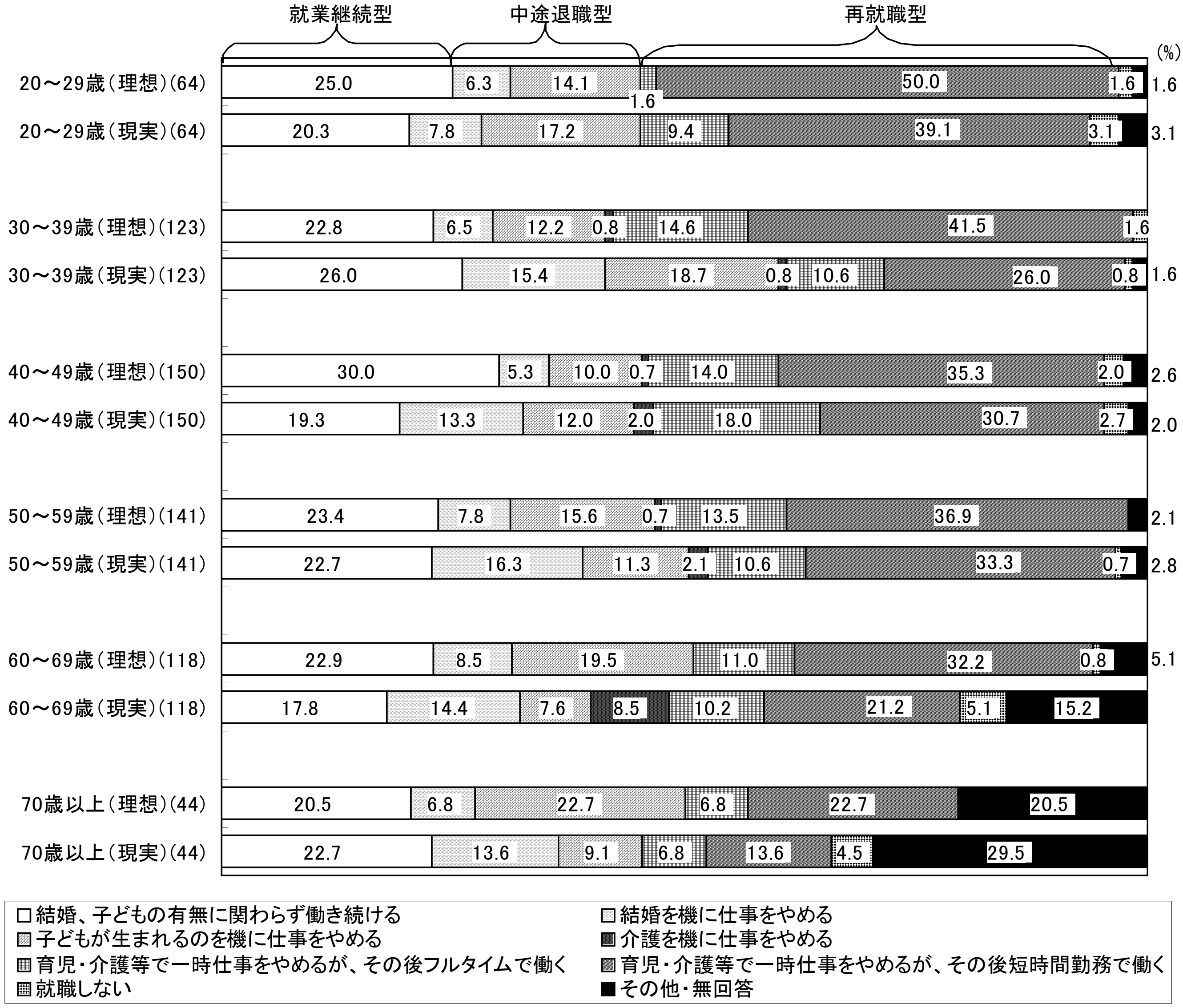
※「就業継続型」…「結婚、子どもの有無に関わらず働き続ける」が該当

「中途退職型」…「結婚を機に仕事をやめる」「子どもが生まれるのを機に仕事をやめる」「介護を機に仕事をやめる」が該当

「再就職型」…「育児・介護等で一時仕事をやめるが、その後フルタイムで働く」「育児・介護等で仕事をやめるが、その後短時間勤務で働く」が該当

(ア)自身の働き方の理想と現実

【年代別、女性】



女性では、理想と現実の状況は各年代で様々であるが、20代～40代において理想と現実の間にひらきが大きい。

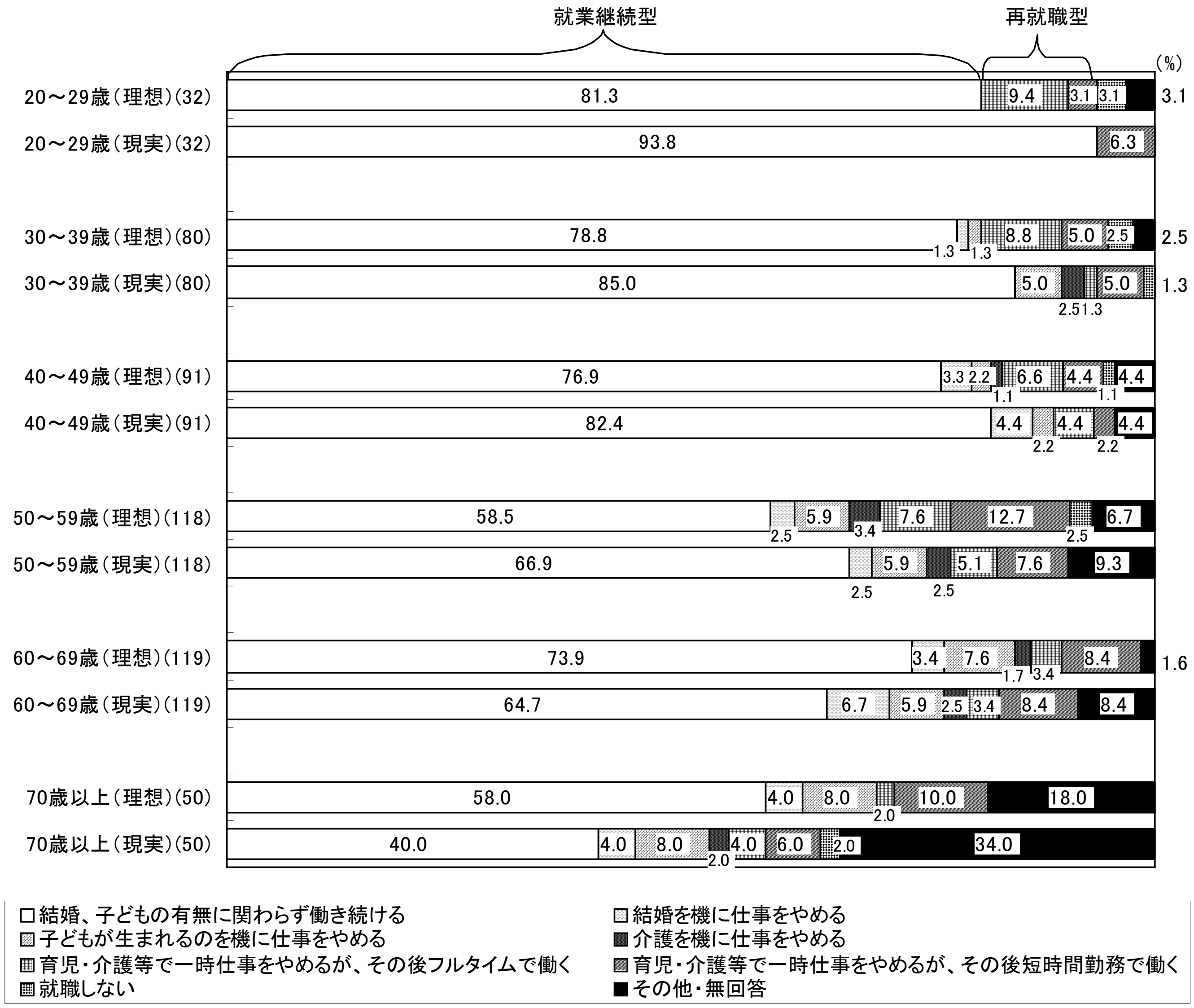
20代の理想は、『再就職型』の短時間勤務が高くなっているが、現実は理想よりも10.9ポイント少ない。また、『就業継続型』も4.7ポイント理想よりも現実のほうが割合が少ないが、理想と現実の差はさほどない。

30代は、理想では『再就職型』を挙げる回答が56.1%と高いものの、現実では36.6%と19.5ポイント低く、一方で『中途退職型』(理想19.5%、現実34.9%)は、現実の方が15.4ポイント高い。

40代は、各年代の中でも理想で『就業継続型』の割合が最も高いが(30.0%)、現実は19.3%にとどまり10.7ポイント低い。一方で『中途退職型』は11.3ポイント理想よりも現実が高く、20代から40代では、結婚や妊娠が仕事の継続に大きく影響していることがわかる。

また、60代の現実では、「介護を機に仕事をやめる」が他の年代より高くなっている。

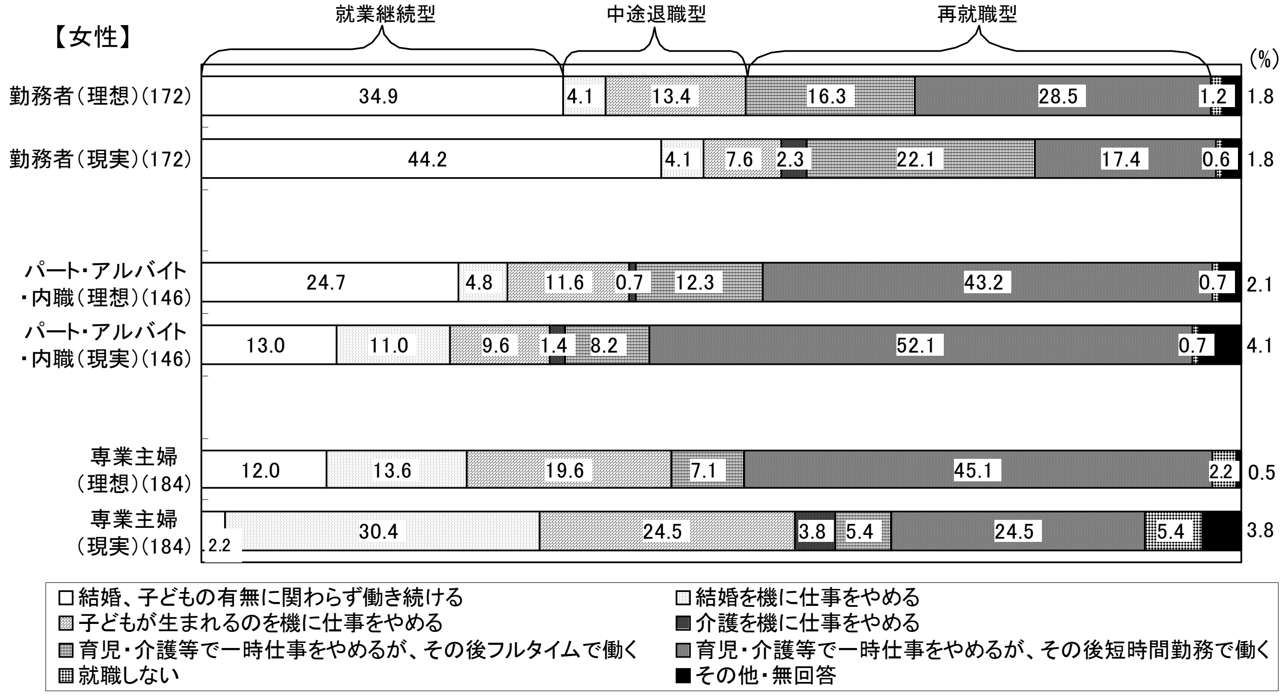
【年代別、男性】



男性では、全ての年代で現実・理想とも『就業継続型』の割合が最も高い。

また、70 歳以上においても、理想では、58.0%が『働き続けたい』と思っており、女性（20.5%）の３倍近くある。

【働き方別】

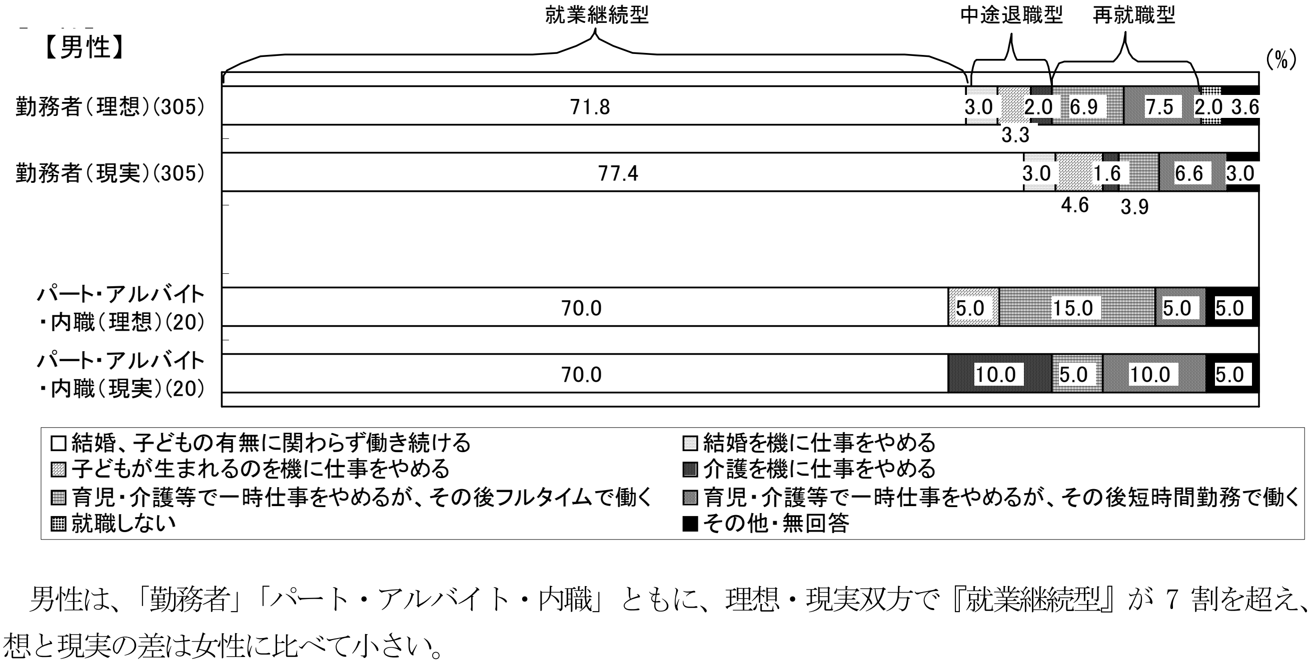


働き方別にみると、「勤務者」では、『就業継続型』が理想では34.9%だが、現実では44.2%であり、理想の方が9.3ポイント低い。

「パート・アルバイト・内職」では、『就業継続型』の現実は13.0%だが、理想は24.7%となっており、11.7ポイント現実のほうが割合が低く、『再就職型』(現実60.2%、理想55.5%) は現実を理想が4.8ポイント上回るなど、理想と現実に差がみられる。

「専業主婦」は、現実では『中途退職型』(58.7%) が最も高いが、理想では『再就職型』(52.2%) が最も高く、『中途退職型』(33.2%) を19ポイント以上上回っている。

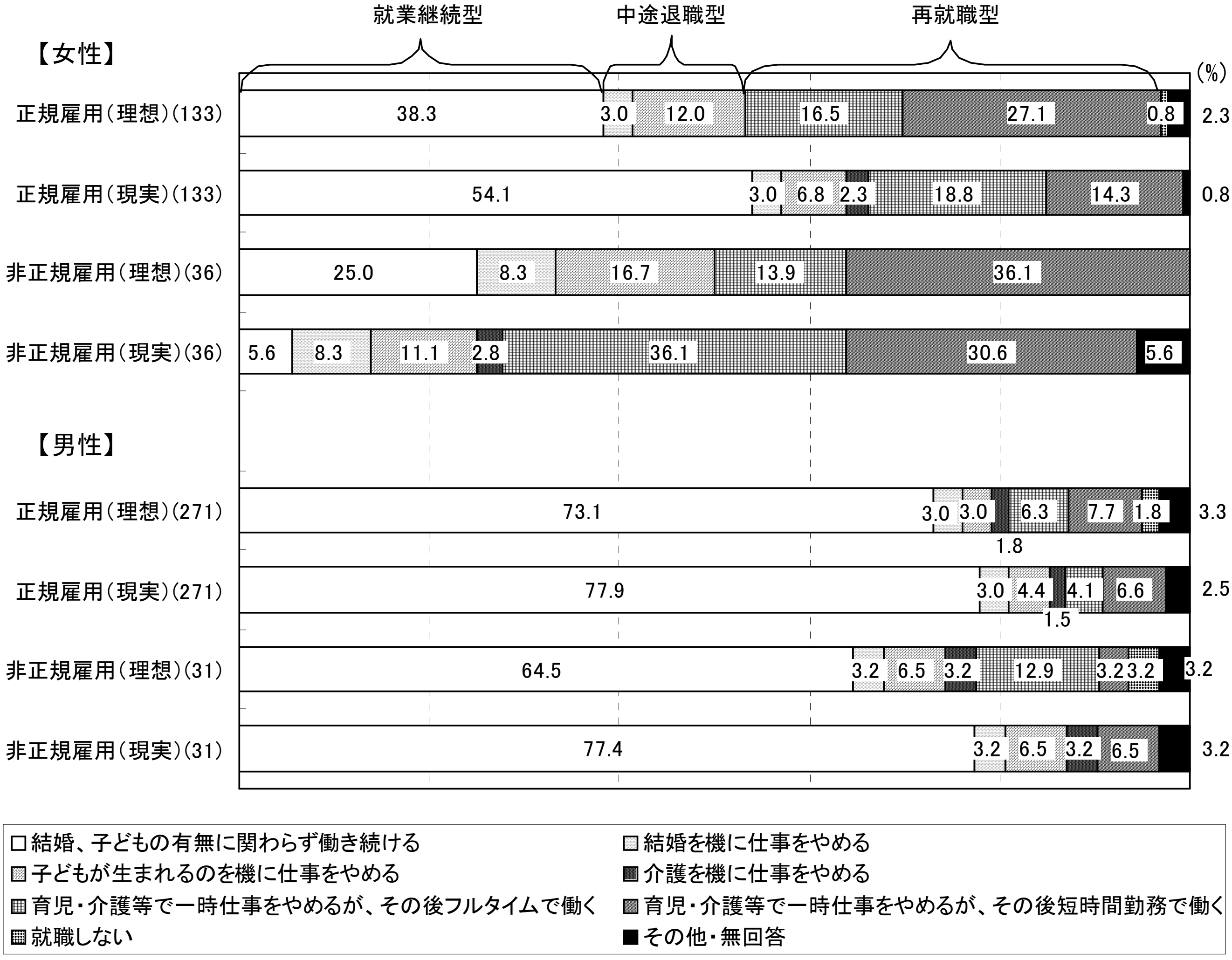
なお、『再就職型』でも、現実 (29.9%) と理想 (52.2%) では22.3ポイントと大きな開きがあり、専業主婦の再就職の難しさが伺える。



男性は、「勤務者」「パート・アルバイト・内職」ともに、理想・現実双方で『就業継続型』が7割を超え、理想と現実の差は女性に比べて小さい。

※男性では、「専業主夫」は該当者なし

【本人の雇用形態別】



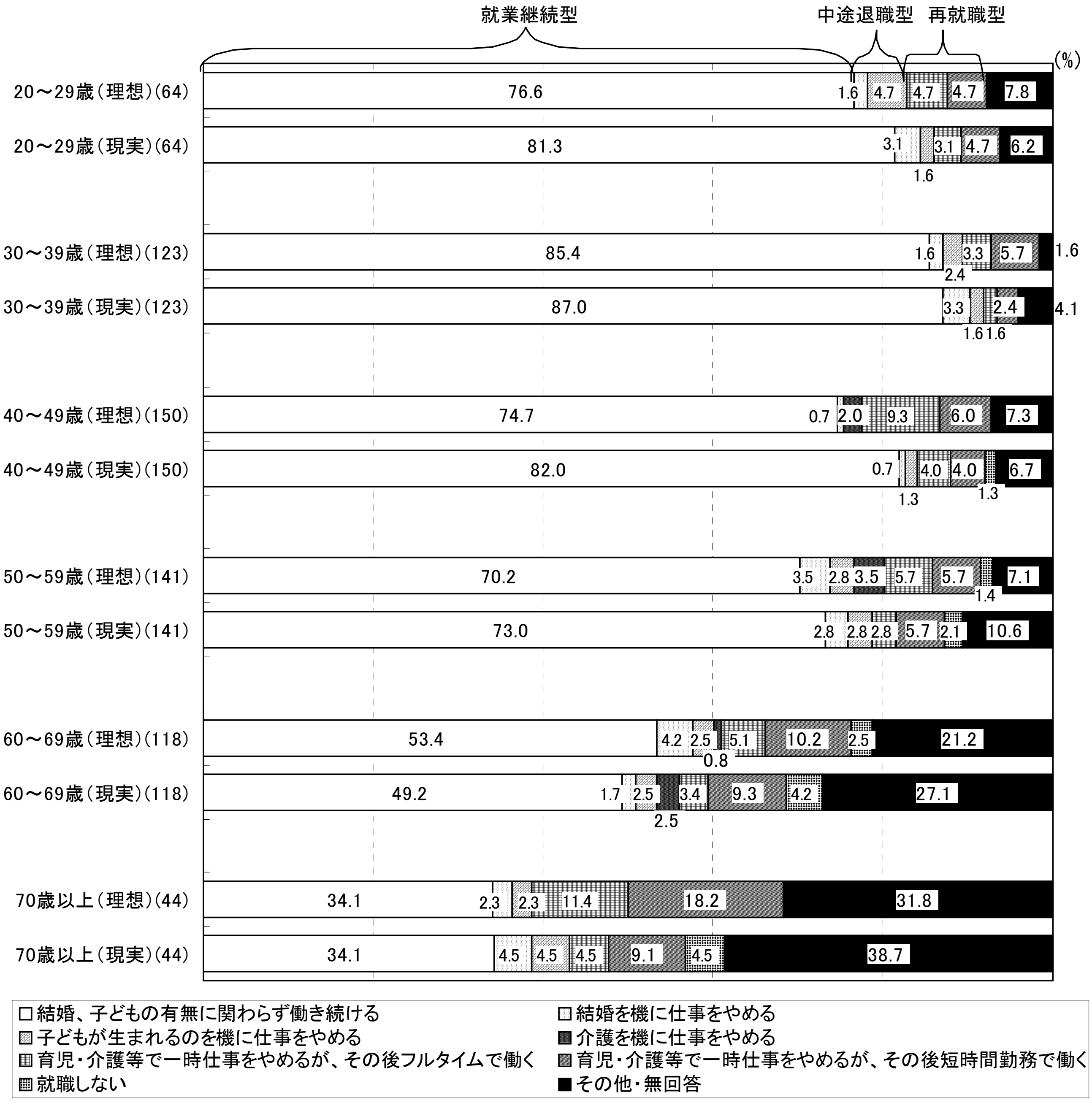
雇用形態別にみると、女性の「正規雇用」では、『就業継続型』（理想 38.3%、現実 54.1%）が理想よりも現実が 15.8 ポイント高く、「非正規雇用」では、『就業継続型』（理想 25.0%、現実 5.6%）が理想より現実が 19.4 ポイント下回っている。また、非正規雇用の『再就職型』（理想 50.0%、現実 66.7%）では、現実が理想を 16.7 ポイント上回るなど、理想と現実の間に差があり、その差は正規雇用の場合よりも大きい。

男性は、女性ほど理想と現実の差はない。

（イ） 配偶者の働き方、理想と現実

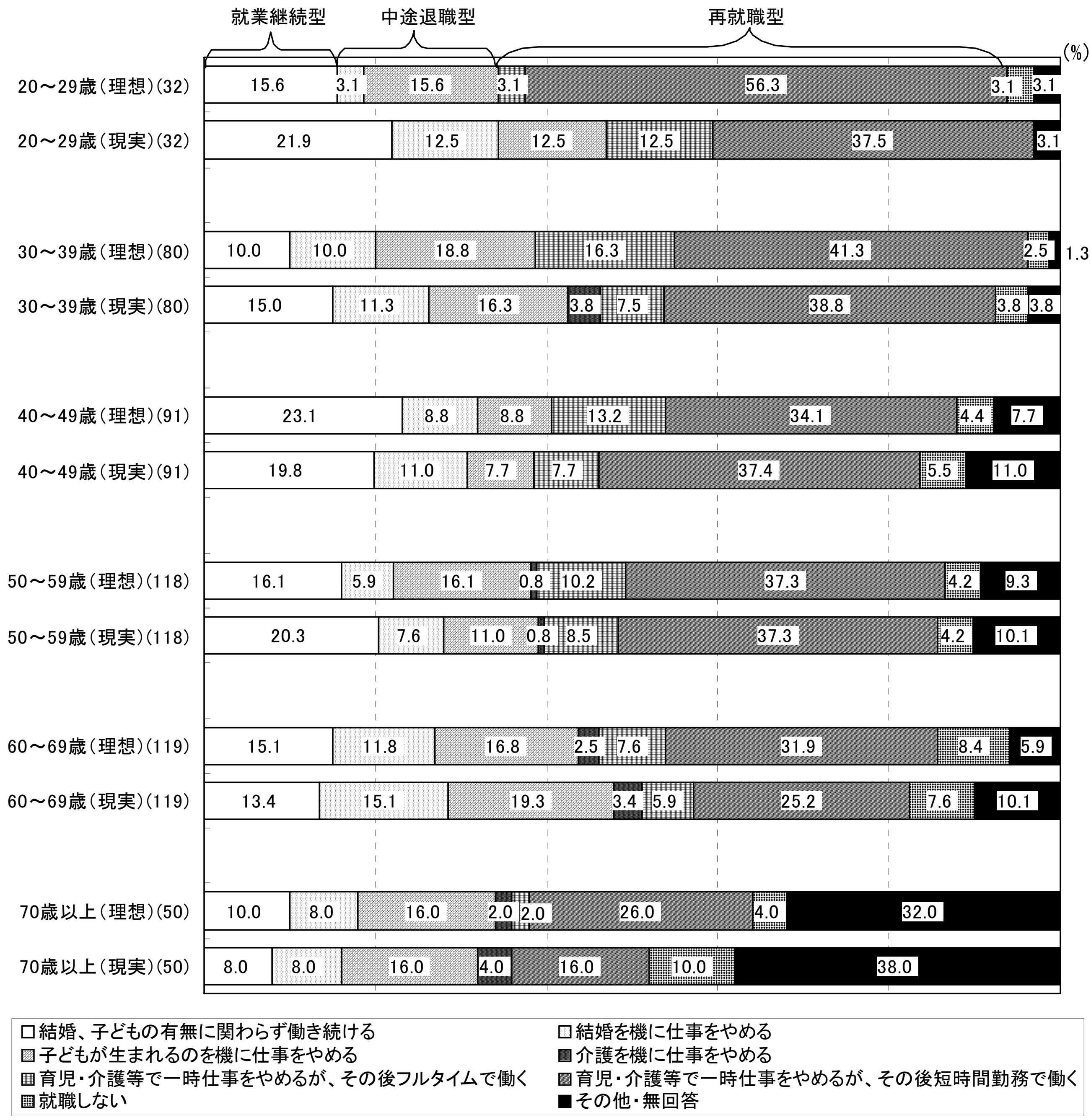
【年代別、女性】

女性からみた配偶者の働き方の理想と現実を年代別にみると、全ての年代で理想・現実とも『就業継続型』と回答する割合が最も高い。



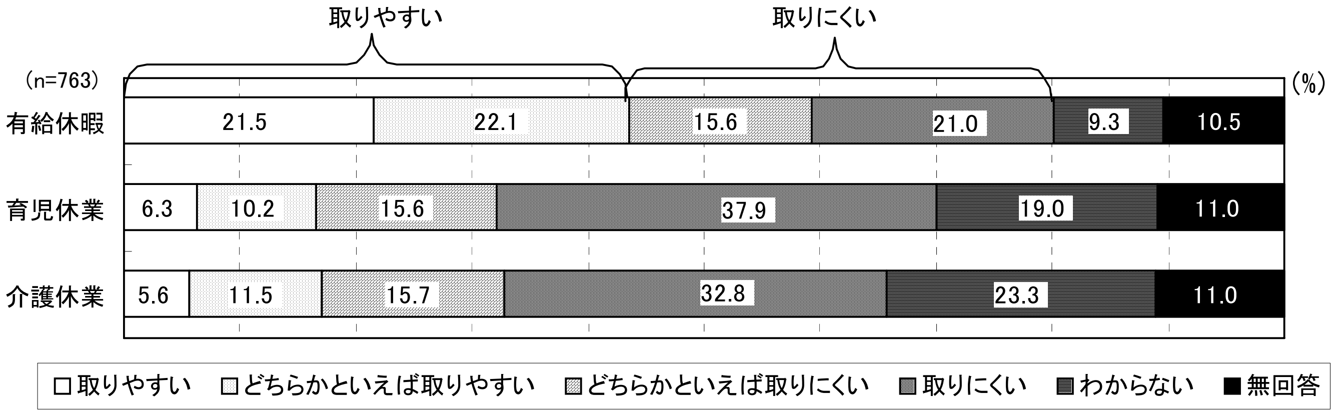
【年代別、男性】

男性からみた配偶者の働き方の理想と現実を年代別にみると、50 代までは『再就職型』を理想とする割合が最も高く、また、どの年代においても、『就業継続型』を大きく上回っている。

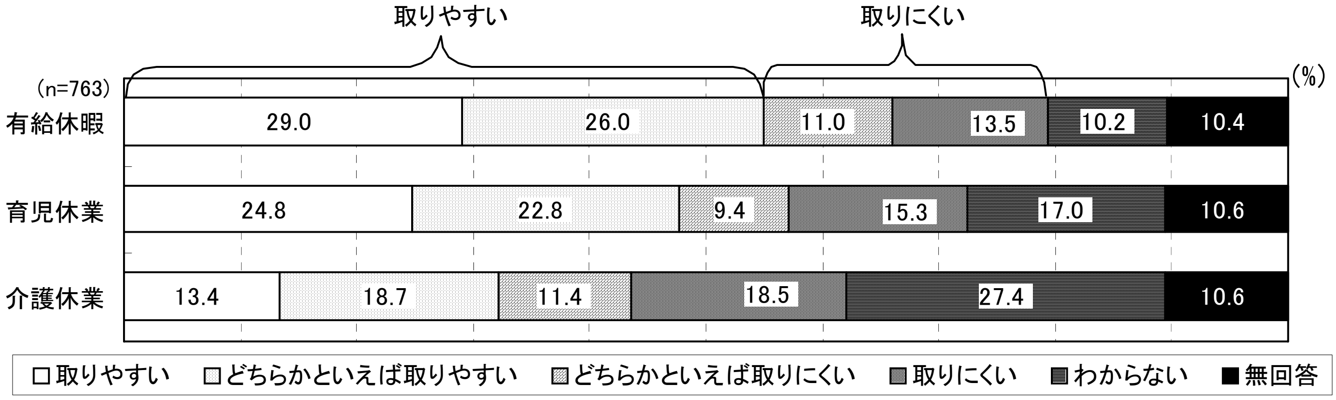


（２）有給休暇、育児・介護休業の取りやすさ

問１０．(1) あなたの職場では、**男性職員**が有給休暇や育児・介護休業を取りやすい環境にありますか。それぞれ下の選択肢から該当する番号**ひとつ**に○をつけてください。



(2) また、あなたの職場では**女性職員**が有給休暇や育児・介護休業を取りやすい環境にありますか。それぞれ下の選択肢から該当する番号**ひとつ**に○をつけてください。

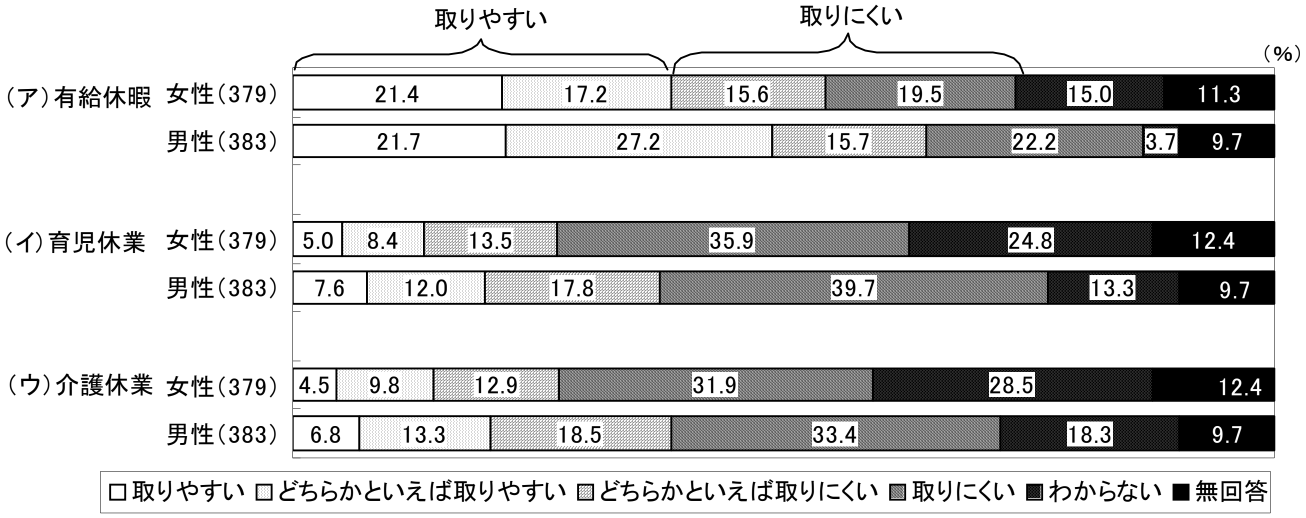


「有給休暇」「育児休業」「介護休業」ともに、男性職員よりも女性職員のほうが『取りやすい』という回答が多くなっており、育児休業では31.1ポイント、介護休業は15.0ポイント、有給休暇は11.4ポイント女性のほうが『取りやすい』が上回っている。

男性職員の休暇の取りやすさでは、有給休暇（43.6%)、介護休業（17.1%)、育児休業（16.5%）の順であり、特に「育児休業」と「介護休業」は、『取りにくい』が約５割を占めている。

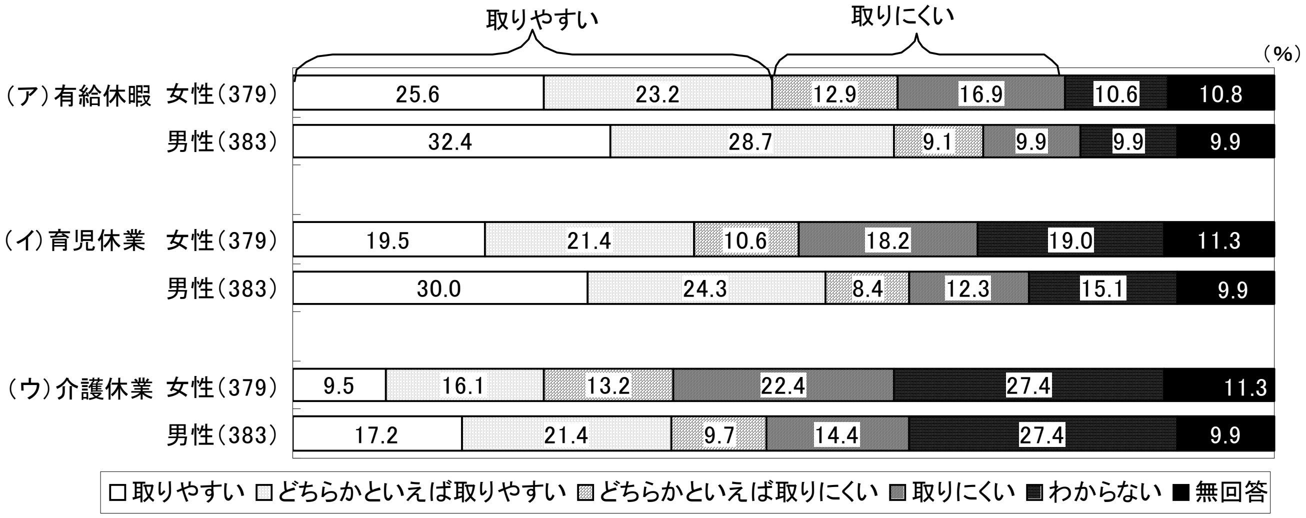
女性職員の休暇の取りやすさは、有給休暇（55.0%)、育児休業（47.6%)、介護休業（32.1%）の順で、いずれも『取りにくい』の割合を上回っており男性ほど休暇の種類による差はない。

【男性職員の取りやすさ(男女別回答の比較)】



男女別に比較すると、育児休業・介護休業において取りにくさは女性よりも男性自身の方が、強く感じていることがわかる。

【女性職員の取りやすさ(男女別回答の比較)】

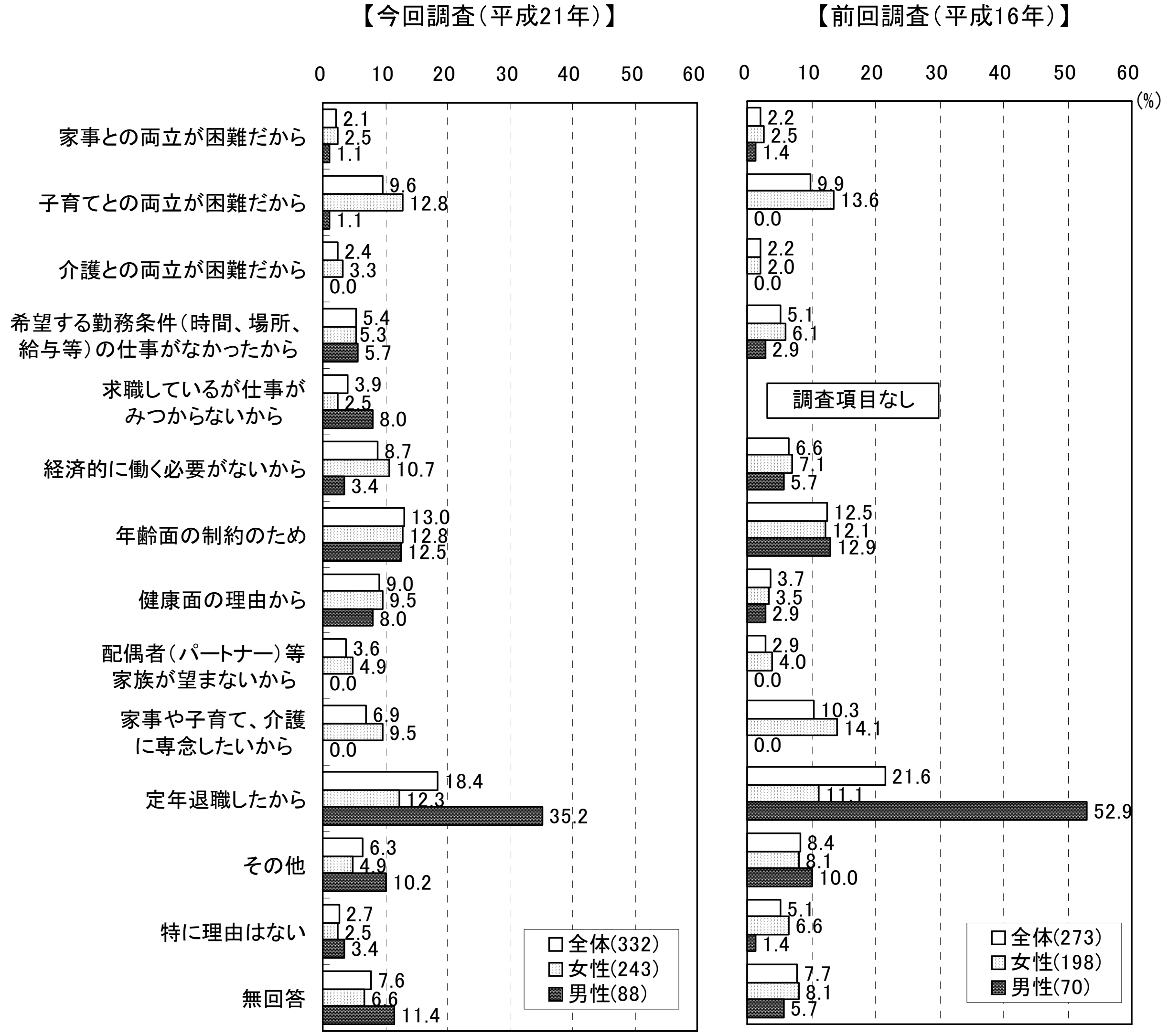


男女別に比較すると、女性自身よりも男性の方が、女性職員が有給休暇・育児休業・介護休業を『取りやすい』と感じていることがわかる。

（3）働いていない理由

問１１　あなたが働いていない理由として最も近い番号**ひとつ**に○をつけてください。

※無職の方（専業主婦、年金・金利生活者、学生等を含む）のみ回答



項目	今回 全体(332)	今回 女性(243)	今回 男性(88)	前回 全体(273)	前回 女性(198)	前回 男性(70)
家事との両立が困難だから	2.1	2.5	1.1	2.2	2.5	1.4
子育てとの両立が困難だから	9.6	12.8	1.1	9.9	13.6	0.0
介護との両立が困難だから	2.4	3.3	0.0	2.2	2.0	0.0
希望する勤務条件（時間、場所、給与等）の仕事がなかったから	5.4	5.3	5.7	5.1	6.1	2.9
求職しているが仕事がみつからないから	3.9	2.5	8.0	調査項目なし		
経済的に働く必要がないから	8.7	10.7	3.4	6.6	7.1	5.7
年齢面の制約のため	13.0	12.8	12.5	12.5	12.1	12.9
健康面の理由から	9.0	9.5	8.0	3.7	3.5	2.9
配偶者（パートナー）等家族が望まないから	3.6	4.9	0.0	2.9	4.0	0.0
家事や子育て、介護に専念したいから	6.9	9.5	0.0	10.3	14.1	0.0
定年退職したから	18.4	12.3	35.2	21.6	11.1	52.9
その他	6.3	4.9	10.2	8.4	8.1	10.0
特に理由はない	2.7	2.5	3.4	5.1	6.6	1.4
無回答	7.6	6.6	11.4	7.7	8.1	5.7

現在働いていない人にその理由をたずねたところ、女性は『子育てとの両立が困難だから』と『年齢面の制約のため』と回答している割合がいずれも12.8%で最も高く、次いで『定年退職したから』(12.3%)となり、男性は『定年退職したから』と回答している割合が35.2%と最も高く、次いで『年齢面の制約のため』(12.5%)、『健康面の理由から』(8.0%)と『求職しているが仕事が見つからないから』(8.0%)の順となっている。

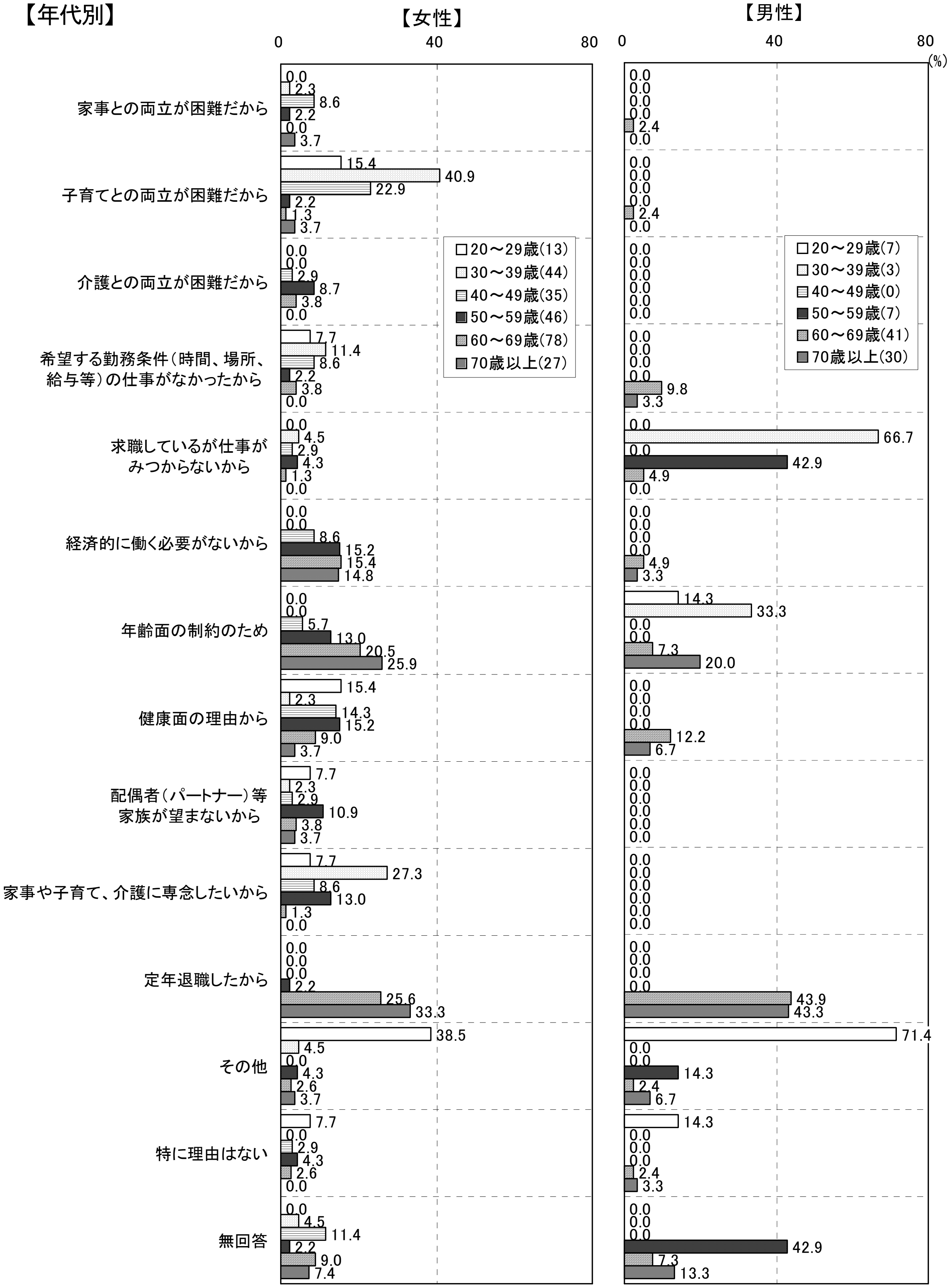
男性では、子育て・家事を理由とする割合はごく少ない。

【前回調査(平成16年)との比較】

平成16年に実施した前回調査と比較すると、女性では『家事や子育て、介護に専念したいから』が若干減少し、『健康面の理由から』と『経済的に働く必要がないから』が若干上昇している。

男性は『定年退職したから』が減少し、『健康面の理由から』と『希望する勤務条件の仕事がなかったから』が若干上昇しているほか、前回は0%であった『子育てとの両立が困難だから』が1.1%とわずかだがある。

※前回調査では、「希望する勤務条件（時間、場所、給与等）の仕事がなかったから」は、「適当な勤務条件（時間、場所等）の仕事がなかったから」となっている。



男女とも60代、70代以上では『定年退職したから』が最も高いが、女性において、『子育てとの両立が困難だから』は、40歳未満の割合が高く、『家事や子育て、介護に専念したいから』も30代が27.3%と突出している。また、『経済的に働く必要がないから』『年齢面の制約のため』は50代以降の割合が高い。

※　男性は回答数が少ないため、参考とする。